

2020年度事業計画書

I. 2020年度事業方針

食文化研究者の発掘・育成と研究・交流の場の継続的提供により、研究の更なる発展・拡大を図り、成果・知見の外部への体系的発信を通じて、食文化への関心を喚起し、理解を深める。

II. 2020年度事業計画

1. 食の文化フォーラム開催

- ① 食の文化フォーラムが40周年を迎える2022年に向け、2019年度からの3か年を「フォーラム40周年記念」として、食文化研究全体を俯瞰するテーマで開催し、過去20年の集大成とする。その成果を2020年より毎年出版する3巻の書籍(シリーズ本)にまとめ刊行する。
- ② 2020年度 年間テーマ「食と現代」
コーディネーター：伏木亨氏(龍谷大学)、総合司会：半田章二氏((株)シー・ディー・アイ)
第1回セッション「科学によって見えてきた食の姿－動物から人へ」(2020/6/27)
第2回セッション「現代の食の姿」(2020/10/17)
第3回セッション「科学技術と食文化変容」(2021/3/6)
- ③ 2020年度出版「食の人類史(仮)」(2019年度食の文化フォーラム成果)
- ④ フォーラム40周年以降を見据え次世代の育成を推進する。

2. 食の文化シンポジウム・公開講座開催

- ① 食の文化シンポジウム(時期未定:2020年10月以降)
食の文化フォーラムでの議論をベースに幅広く研究者・学生も交えて議論する。
- ② 共催シンポジウム(時期未定:2020年10月～12月)
人間文化研究機構と共催のシンポジウムを開催、Web配信も通じ広く発信する。
- ③ 公開講座
シンポジウム・公開講座等のあり方・ターゲットを整理し、新たな公開講座を企画する。

3. 食の文化研究助成

助成研究の着実な実施と認知度向上を通じて、食文化研究の更なる裾野の拡大を図る。
既助成対象者へのヒアリング結果を踏まえ、助成期間延長を中心に、応募要領の見直しを実施する。
これまでの助成対象者の交流、発表機会の創出を検討し、研究の拡がり・研究者増加を促進する。

4. 食の文化ライブラリー

- ① 公開図書館
利用実態把握を推進し、将来のライブラリーのあり方につき検討を開始する。
- ② 公開展示
企画展示室映像の第2弾を制作する。また、デジタルデータを活用し、所蔵する錦絵・古典籍とその解説を読むタッチパネルを設置し、食文化への関心の向上を図る。

③ 所蔵資産の活用

2020年「おいしい浮世絵展」(森アーツセンターギャラリー)への錦絵・古典籍の貸出を行う。

5. 食の文化誌『vesta』

① デザイン刷新・デジタル版推進

制作会社を変更し、新たな読者の食文化への関心の入口となるよう、表紙および誌面のデザインを刷新するとともに、2019年度販売開始したデジタル版(Kindle、auブックパス等)の更なる普及を通じ、新規読者層の開拓を図る。

② 2020年度『vesta』出版

118号特集 「「多文化」化する日本の外食」太田心平氏(国立民族学博物館) (2020/4)

119号特集 「世界を旅する和食の消息(仮)」高田公理氏(武庫川女子大学名誉教授) (2020/7)

120号特集 「日本の果物(仮)」中澤弥子氏(長野県立大学教授)(2020/10)

121号特集 検討中(2021/1)

6. 食の文化ウェブ

① ホームページ

『vesta』、SNS、メールマガジンと連動し、日英コンテンツの充実化を図る。

② メールマガジン

2019年に開設したメールマガジン会員向けサイトを充実化し、財団活動への理解とファン化の促進を図る。

③ SNS

Facebook記事を通じ、食文化への関心喚起と味の素食の文化センターへのファン化を図る。

以上